

正平南海地震

14世紀に起きた大地震「正平南海地震」が、東南海地震と連動していたことを裏付ける記述を、三重県地震対策室の奥野真行さん(39)が、三重県・伊勢神宮の史料から発見した。伊勢神宮の外宮正殿で柱が倒れたと被害の状況が記されており、震度6弱以上の揺れが起きたと推定される。

14世紀に「東南海」「南海」連動

伊勢神宮に被害の史料

同神宮は東南海地震の想定震源域内にあることから、これまではっきりしていなかった「連動」の根拠として注目されそうだ。研究成果は、22日から千葉市で始まる日本地球惑星科学連合大会で発表する。奥野さんは、伊勢神宮関

3つの地震の想定震源域と伊勢神宮



連の記録文書「神宮文書」で、1361年(正平16年)8月3日付の書状に、「依去六月地震、心御柱傾倚、御束柱顛倒」とあるのを見つけた。6月の地震で外宮正殿の建物の中心に置かれた「心御柱」という柱が傾き、高床式の床下の柱である

「束柱」が倒れたという記述だ。この規模の被害が出るのは、東南海地震が起きたか、南海地震との連動地震が起きたかの場合と考えられる。正平16年6月24日に正平南海地震が発生したことは知られているが、東南海地震が連動したかどうかは史料が乏しかった。

正平南海地震は、東海、東南海、南海の三連動型という説がある。三連動型は300〜500年間隔で繰り返されると考えられ、1707年には宝永地震が起きたことが知られている。